

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H04940

研究課題名(和文) 林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性

研究課題名(英文) Conservation and sustainable uses of forestry heritages for forestry education and local development

研究代表者

柴崎 茂光 (SHIBASAKI, Shigemitsu)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：90345190

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：国内における林業遺産の実態把握や保全活用に向けた政策提言を行った。継承的価値に基づいた地域住民や鉄道愛好家による保全活動が、森林鉄道といった搬出関連の遺産の保全に寄与していた。林業技術・景観の保全には、地域の生業維持が不可欠である状況も明らかとなった。ただし、観光資源として経済効果を生み出している林業遺産は依然として乏しく、林業遺産の認知度が一般的に低い現状を鑑みると、教育資源としての活用を進め、地域の宝として認識されることが重要と判明した。大半の林業遺産は、保護地域に指定・登録されておらず、保全に対する財政的な支出根拠が乏しい。林業遺産の保全を目指した公的制度創設の必要性を提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究代表者らは、日本森林学会において、企画シンポ「林業遺産の保存と持続的な活用に向けて 日本森林学会の選定遺産の紹介」(2018年3月)や、公募セッション「林業遺産の保存と持続的な活用に関する研究」(2018年3月)の企画に携わり、研究発表を行った。林業経済学会では、テーマ別セッション「農山漁村の暮らし・生業の記録、およびそれらの活用に向けた基礎的研究」(2016年11月)を企画した。日本森林学会公開シンポ「林業遺産への期待と展望」(2018年5月)ではコメンテーターなどを務め、情報発信や交流を促進した。国立歴史民俗博物館特集展示「国立公園・今昔」において、林業遺産の価値を紹介した。

研究成果の概要(英文)：This project analyzed the present condition of forestry heritages in Japan to make political proposals for their conservation and sustainable uses. The conservation of forestry heritages related to timber transport was promoted through conservation movements undertaken by local residents and railway enthusiasts. Maintaining local forestry contributed to the succession in forestry techniques and forest landscapes. However, few forestry heritages generated economic benefits as tourism resources. They are still not promoted sufficiently, and we need to prioritize the educational uses of forestry heritages so that they are recognized as "local treasures." Since most forestry heritages are not designated as protected areas, there are no substantial reasons for disbursing subsidies to protect them. Therefore, the establishment of public institutions, such as protected area systems for forestry heritages, is necessary for better management.

研究分野：林業経済学, 民俗学

キーワード：近代化遺産 近代化産業遺産 ジオパーク 生物圏保存地域(ユネスコエコパーク) 世界遺産 日本遺産 文化財 既着手行為

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

20 世紀の終わり頃から、鉱工業・運輸業・ダムなどに関連した近代化遺産への関心が高まりをみせてきた。林業に関しても、日本森林学会が 2013 年度から「林業遺産」選定事業を開始するなど、保全に向けた機運が少しずつ高まってきている。しかし、林業遺産の現状に関する実態調査は十分に行われておらず、その現状把握は急務と課題といえる。

2. 研究の目的

本研究では、林業遺産の管理の実態を把握した上でその保全のあり方を考え、長期的な視点から林業教育や地域づくりにつなげるための方策を考察する。具体的には、包括的な視点から、林業遺産を網羅する調査を行い、その現状と課題を把握した。その上で、活用されている林業遺産の保存と活用上の課題や、風化の危機に瀕している林業遺産の消失過程を実証研究に基づいて把握した上で、保全・活用に向けた潜在的可能性を探った。

本稿では「山との関わりを持ちながら、用材・薪炭材・動植物・楽しみ・畏れといった有形・無形の恵みを受ける活動や、山地災害などを軽減させるために行う活動」を林業と定義する。こうして定義された林業活動を通じて、地域の歴史の中で何らかの意味を有する有形物または無形物を林業遺産と定義した。なお、日本森林学会が選定した林業遺産については、「林業遺産」と括弧をつけて区別して表記している。

3. 研究の方法

包括的な視点に基づく研究として、林業遺産の価値に注目し、保全・活用に関する論点整理を行った。この他に、林野・文化財行政に係る公的機関に対するアンケート調査を実施し、全国に分布する林業遺産の管理の実態を把握した。

実証研究については、林業跡地や構造物（森林鉄道を含む）、林業技術や林業景観、道具類や資料群、林業に係る習俗など、種類別に保全上の課題や活用に向けた潜在可能性を明らかにした。

4. 研究成果

4 - 1 包括的な視点に基づいた研究成果

(1) 林業遺産をめぐる価値の分類

「人間主体の認識に基づく望ましさの方向性」として価値を捉えた場合に、林業遺産に関連する価値は、対象物の存在自体にみだされる価値（「保存を志向する価値」、もしくは「一次的価値」と、既に価値付けされた対象を活用しようとする価値（「活用を志向する価値」、もしくは「二次的価値」）に大別できた。さらに「保存を志向する価値」は、専門家や郷土史家が重んじる「学術的価値」や、地域住民や愛好者が後世に残すことを望む「継承的価値」に細分化できた。「活用を志向する価値」は、観光事業者などが期待する「経済的価値」、来訪者が享受する「体感的価値」、地域の誇りや活力向上に結びつく「象徴的価値」から構成される。

(2) 林業遺産アンケート調査

2016 年に、林野庁、都道府県の林務担当課や文化財担当課、博物館、林学関係の教育機関、計 612 機関（再集計値）に対して、「種類ごとの林業遺産の有無」「積極的な保存・活用事例」「管理上の問題点」などを質問した調査票を郵送したところ、220 機関より回答を得た（再集計値、有効回答率 36%）。

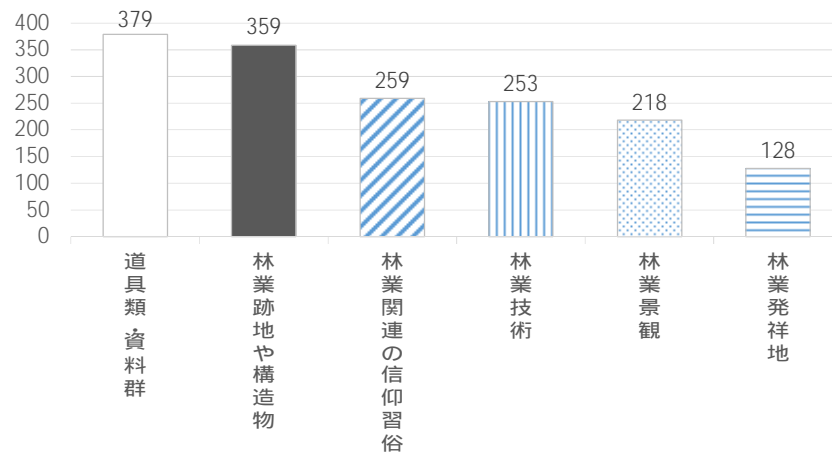


図1 種類別に記載された林業遺産の数(複数回答)

「種類ごとの林業遺産の有無」については、「道具類・資料群」が 379 件と最も多く、森林鉄道関連の有形物が含まれる「林業跡地や構造物」(359 件)、山の神信仰に代表される「林業関連の信仰習俗」(259 件)、「林業技術」(253 件)、「林業景観」(218 件)、「林業発祥地」(128 件)と続いた(図1、複数回答)。

「積極的な保存・活用事例の有無」を質問したところ、積極的な保存・活用事例があると回答した機関は 70 機関で、このうち活用の状況を詳述していた機関は 37 機関にとどまった(複数回答)。最も多かった活用の事例は、「展示・教育研修」の 23 件で、「環境・景観保全」の 6 件がこ

れに続いた。

「管理上の問題点」に関する質問については、全体の約 1/3 にあたる 74 機関から回答があった（複数回答）。この中で、「林業遺産管理上の従事者やボランティアの担い手不足」を引き起こしている（17 件）という意見が最も多く出された。こうした担い手不足を引き起こしている要因として、林業や林産業の停滞を指摘する意見が多く出された。この他に、「林業遺産への認知度・関心が低い」とする意見も 14 件あった。また道具類・資料群が博物館などに保存された場合であっても、「施設の老朽化や維持管理費用の捻出が困難」（12 件）な状況も浮き彫りになった。さらに大半の林業遺産が、「遠隔地にありアクセスが困難」（6 件）であることも一因となり、「学術調査が十分行われておらず」（7 件）、文化財に指定・登録されていない林業遺産については「保全活動に対する財政支出を行う根拠がない」（5 件）という意見も出された。

4 - 2 実証研究から明らかになった研究成果

（1）森林鉄道・軌道に関連した林業遺産

木材を搬出するために敷設された森林鉄道・軌道は、等高線に沿って緩やかな勾配で建設されたことから、廃止後は転用による利活用が進んだ。里に近い区間では、車道に転用される場合が一般的であるが、仁別サイクリングロード（秋田市）のように自転車道となった場所や、農業用水路に転用された事例もある。山間部のアクセスが困難な場所については、廃止後も放置されている場合が多いが、西沢渓谷遊歩道（山梨市）、寸又峡プロムナードコース（静岡県川根本町）、芦津渓谷（鳥取県智頭町）のように主要な歩きやすい遊歩道として観光利用される事例もある。

機関車などの車両については、ディレッタニズム（専門家以外による趣味に基づく専門分野への傾注）が浸透し、鉄道愛好家による「所在の確認」や「学術的価値」の蓄積が続いている。ただし、往時の体験・記憶が十分に継承されない場合には、いったん保存された車両であっても、老朽化や資金面の手当ても含め、地域住民などの関心が薄れ、解体されてしまうこともある。

丸瀬布いこいの森（北海道遠軽町）や赤沢自然休養林（長野県上松町）では、国有林内で運材作業を担った機関車などが、保存されている。さらにこれらの地域では、町や町から委託を受けた団体が、春季から秋季にかけて有料運行を行っており、小規模とはいえ町民や周辺市町村住民の就労の場も提供されていた。ただし、車両、レール、枕木といった設備の維持管理費用の予算確保や、客単価が少ない点は、改善すべき課題として残されている。なお丸瀬布の事例については、森林鉄道廃止時には、車両の廃棄が予定されており、遺産消失の危機を抱えていた。しかし一部の地域住民有志による車両保全の呼びかけが呼び水となって、当時の林野庁も動かし、町の財政支援なども受けて車両の保存が決まり、さらに保全活動が継続される中で、観光客を対象とした運行へとつながった。丸瀬布や赤沢の事例以外にも、今世紀に入ると、動態・静態保存に加えて、遺産ブームによって在野から様々な森林鉄道関連の書籍が相次いで出版されるようになった。津軽森林鉄道（青森県）では、森林鉄道を含む林業史や地域資源を解説するガイドツアーの実施もみられるようになった。

その一方で、最盛期には約 1500 人が居住する林業集落が形成された十勝三股地区（北海道士幌町）では、音更森林鉄道や士幌線の廃止後に過疎化が進んだ。旧十勝三股駅周辺の土地が環境省に移管される過程で、多くの森林鉄道関連の遺構も消失した。十勝三股地区は大雪国立公園内にあり、環境省は 1995 年に同地区を集団施設地区に指定し、来訪者向けの施設整備を目指したが、開発行為に反対を表明した自然保護運動の影響もあり、2019 年に同地区の集団施設地区指定が解除され、当初の計画は頓挫した。北海道産業考古学会の要請により残された修理工場も、放置の状態が続く中で老朽化が進み、積雪の重みに耐えられず 2017 年初めに半壊した。

屋久島（鹿児島県屋久島町）では、ダム・水力発電所などの維持管理や、山中のトイレから組みだされた残渣の搬出のために、旧安房森林鉄道の一部区間が現役利用されてきたが、旧安房森林鉄道以外の軌道や集落跡に関しては、間伐事業の際に、森林鉄道関連の遺構が破損・消失する状況が続いた。しかし 2017 年に屋久島の森林鉄道・軌道群が「林業遺産」に選定されたことを一つの契機として、軌道跡や遺構や生活痕の保全に向けた官学協働型の保全活動が進められてきている。

（2）生業と関わりの深い林業遺産（林業技術、林業景観）

ウルシ栽培は日本各地で行われてきたが、中国からの廉価な漆液の輸入が拡大する中で、大半の国内産地は衰退の道をたどった。しかし、岩手県二戸地方の場合には、ウルシ栽培が現在も維持され、生産技術も継承されてきた。その要因だが、大正期より地元出身の漆掻き職人が原木資源の確保に努めてきており、国内産地の中で資源面での優位性が確保されていた。さらに、文化庁などの公的機関による保護政策の存在が大きかった。たとえば、文化庁の選定保存技術制度に基づいて、日本うるし掻き技術保存会（発足当時の事務局は岩手県浄法寺町）が保存団体に認定され、漆掻き職人の研修生の一部が、後に漆掻き職人として定着した。文化庁は、国宝を含む重要文化財（建造物）の保存・修理において 100% 国産漆液の使用を目指す通知（2015 年 2 月）を発表したが、今後の長期的なウルシ資源供給ならびに漆掻き技術の継承に寄与すると予想される。ウルシ栽培以外にも、福井県打波川流域では、林間でのオウレン栽培技術が継承されてきた。白山麓の出作り文化に加えて、わずかとはいえ栽培による一定の経済性があることが継承の大きな理由であることが判明した。ただし、栽培者の高齢化は進んでおり、栽培技術を継承していくためには、ウルシ栽培同様に、公的機関の保護政策に基づく、（間接的な意味を含む）経済的

助成が不可欠と考えられた。

林業景観は、樹木の生長に加えて、技術革新、制度改変、嗜好変化、市場のグローバル化といった様々な影響を受けて、時間の経過と共に変化する。北山林業地帯（京都府北山市）に関して「台杉仕立て」、「一代限り丸太仕立て」、「人造絞丸太一斉林」など消費者の嗜好に合わせて、生産技術が移り変わり、現在のモザイク的な景観形成につながった。さらに、写真家、随筆家、研究者などの外からの「まなざし（gaze）」により、林業景観の価値が再評価されてきた。

（3）その他の林業遺産（資料群、信仰習俗）

文書資料については、国立国会図書館デジタルコレクションや Internet Archive の Open Library など、国内外を問わず、デジタルアーカイブズ化が急速に進んできた。林業分野においても、東京大学林政学研究室が 1890 年の設立当初より収集してきた農林行政史料を、学術的、行政的な利用のために広く一般に公開する「林政文庫：農林行政史料アーカイブズ」として公開した。史料群としての「林政文庫」は、明治から現在にいたるまでの森林政策や林業経済、山村社会を概観できる貴重な史料遺産である。なお「林政文庫」については、研究助成が獲得できたことでアーカイブズ化が進んだが、一般的には、組織の統廃合や建物のリニューアルによって、近現代の文書が常に消失するリスクが存在している。

林業遺産アンケート調査でも示されたように、山の神信仰は今も根強く残っている。こうした信仰に基づく風習は、保護地域の指定如何に関わらず行われてきたが、保護地域の規制が、風習の衰退を助長する事例もある。屋久島には、集落の代表者が集落の崇拜する山に登拝して、集落の繁栄を祈る「岳参り」と呼ばれる風習がある。戦前期までは、この「岳参り」の風習の際に、集落の代表者が、奥岳とよばれる地域で、ヤクシマシャクナゲの枝を折ったり、伐採木から杓文字や玩具を作って、里の人々に渡していた。第二次世界大戦後に、岳参りの風習自体が廃れてきたことに加えて、奥岳地域が国立公園の特別保護地区であることを理由に採取・伐採を控えるように伝えられ、採取の風習は消失していった。ただし一部の集落では、今世紀に入り、ヤクシマシャクナゲの枝を持ち帰ることを復活させる動きもみられる。

4 - 3 まとめ

林業遺産アンケート調査を通じて、林業遺産の多くが、遠隔地やアクセスが困難な野外に残っている状況が判明した。教育委員会などによる実態把握も十分でなく、「道具類・資料群」を除いては文化財などの指定・登録も十分進んでいない。そのため、林業遺産を保全に向けて財政支出する根拠がないといった問題点が明らかとなった。収集された資料については、教育利用はなされているものの、博物館などの施設の維持管理費用の確保といった新たな問題を抱えていた。

林業遺産の保全活用の状況を見ると、種類ごとに違いがみられた。「道具類・資料群」については、「学術的価値」や「継承的価値」が評価され、文化財の指定・登録が進んだ。博物館などに収集された資料も比較的多く、展示などによって資料は活用されてきたが、「経済的価値」をもたらす施設は乏しく、「象徴的価値」を促す教育利用が今後も中心となる。「林政文庫」のように、デジタルアーカイブズ化によって「学術的価値」の再価値化が進んだものもある。

森林鉄道関連の遺構群を含む林業跡地・軌道に関しては、保全の二極化が進んでいた。丸瀬布の事例では、「享乐的価値」「象徴的価値」に加えて、必ずしも十分ではないものの「経済的価値」が発揮されていた。観光利用などが進む地域では、地域住民や鉄道愛好家による「継承的価値」に基づく保存を求む声があがり、そうした要請に行政側が応える形で保全が進んだといえる。その一方で、「学術的価値」や「継承的価値」を求む声が少ない大半の軌道跡は、転用されたり、放置されたりすることで消失していった。なお「林業遺産」選定事業を一つの契機として、資源の「学術的価値」などの再価値化が進んだ屋久島のような事例もみられた。森林鉄道などの遺構群が、長期にわたり維持管理されるためには、地域住民や各種愛好家らの「継承的価値」や「象徴的価値」を促すような林業教育の継続が不可欠だろう。

現在も継承されている林業技術・景観については、「経済的価値」の確保が、将来的な遺産継承の鍵となる。ウルシ栽培のように「学術的価値」「継承的価値」に基づく公的な保護政策が、「経済的価値」の低下を補う役割を果たしていた。なお林業技術・景観は、時間経過により変化する性質を有している。北山林業景観の事例は、外部の「まなざし」の導入が新たな「享乐的価値」や「象徴的価値」を創出するという可能性を示唆している。

日本では、林業遺産の活用については、NPO や市町村およびその関係団体といった地域ベースの団体が主導してきた。しかし財政基盤が弱い NPO や市町村では、維持管理費用を維持するだけでも精一杯な状況であることも判明してきた。そこで、林業遺産の保全に対する国家による補助金・助成制度を一つの可能性として提案したい。実際、台湾では、日本の林野庁にあたる林務局が「林業文化園区」制度を創設して、官舎、製材工場、貯木場跡など、日本統治時代の遺構を含む森林鉄道関連の遺構群を総合的に保全（修復・復元）し、来訪者に開放する政策を文化財行政と協働しながら導入してきた。森林鉄道などの遺構群は国有林にも依然として多く眠っており、国有林を中心として、林業遺産の保全活用を主たる目的とした保護地域の設定は可能かもしれない。こうした制度が活用されれば、林業遺産などの森林文化機能の発揮が高まり、結果的に、木材生産機能に対するあたたかい「まなざし」も増えるものと予想される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 393
2. 論文標題 「林業」という言葉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 森林レクリエーション	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 155
2. 論文標題 わが国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群（青森県）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 林雅秀	4. 巻 101(6)
2. 論文標題 岩手県北部地方の農家がウルシ植栽を選択した要因-収益性に着目して-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本森林学会誌	6. 最初と最後の頁 328-336
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4005/jjfs.101.328	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 79
2. 論文標題 守られる自然、失われる文化-保護地域における文化・民俗知の保全-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BIOCITY	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 153
2. 論文標題 十勝三股の林業集落跡地と森林景観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深町加津枝	4. 巻 152
2. 論文標題 木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥山洋一郎	4. 巻 149
2. 論文標題 矢部村における木馬道と木場作業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥敬一	4. 巻 145
2. 論文標題 旧帝室林野局木曾支所庁舎および収蔵資料群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 森林が有する文化的な価値の歴史の変遷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林業経済研究	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20818/jfe.65.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥敬一	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 森林景観の保全における文化的景観概念の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 林業経済研究	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20818/jfe.65.1_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 215
2. 論文標題 観光地「屋久島」イメージの変化について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 215
2. 論文標題 保護地域における森林開発と林業遺産-その意義、保存の現状と課題-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 99-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸男・柴崎茂光・遠山圭佑・藤田克章・高野涼	4. 巻 215
2. 論文標題 宮城県大崎市鬼首地区の開発と契約講による資源管理の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 119-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山洋一郎・森本拓也	4. 巻 215
2. 論文標題 鹿児島大学演習林における林内集落史-森林保護と土地開放-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 151-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 137
2. 論文標題 大学演習林発祥の地 浅間山 -千葉県鴨川市清澄-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥山洋一郎	4. 巻 135
2. 論文標題 大正～昭和初期の林業関係者写真-いの町の森林軌道跡-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥敬一	4. 巻 133
2. 論文標題 木曾式伐木運材図会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 131
2. 論文標題 「雨宮21号」と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 83
2. 論文標題 林業遺産紀行 屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 森林科学	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11519/jjsk.83.0_34	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥敬一	4. 巻 82
2. 論文標題 林業遺産紀行 若狭地域に継承された研磨炭の製炭技術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 森林科学	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11519/jjsk.82.0_32	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 82
2. 論文標題 観光のグローバル化に対する地域資源管理のあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 森林科学	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11519/jjsk.82.0_21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 1601
2. 論文標題 映像で論文を創る-民俗研究映像「屋久島の森に眠る人々の記憶」を制作して-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山林	6. 最初と最後の頁 28-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹本太郎	4. 巻 81
2. 論文標題 林業遺産紀行 「飯能の西川材関係用具」コレクション	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 森林科学	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11519/jjsk.81.0_44	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 127
2. 論文標題 全国緑化行事発祥の地	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 125
2. 論文標題 屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深町加津枝	4. 巻 119
2. 論文標題 吉野林業	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 北の林業遺産(1) 北海道開拓初期の植林試験地-円山養樹園-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北方林業	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 17
2. 論文標題 林業遺産と地域づくり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北の森だより	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴崎茂光	4. 巻 -
2. 論文標題 古くて新しい問題としての屋久島の山岳利用	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 登山倫理シンポジウム	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥敬一	4. 巻 117
2. 論文標題 福井県の林業遺産	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深町加津枝	4. 巻 114
2. 論文標題 林業の発展に貢献した道具や資料	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深町加津枝	4. 巻 111
2. 論文標題 知っていますか「林業遺産」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 林野	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 平取町におけるアイヌ文化伝承へ向けた森林再生の取り組み-北方森林学会春季行事に参加して-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北方林業	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八巻一成	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 北海道における林業遺産と森林鉄道関連遺構	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北方林業	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柴崎茂光, 奥山洋一郎, 武田泉, 八巻一成
2. 発表標題 林業遺産の保全に向けた改善策の提案
3. 学会等名 第131回日本森林学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigemitsu SHIBASAKI
2. 発表標題 Conservation of culture related with outstanding nature
3. 学会等名 「山と人のつながりを考える国際シンポジウム」(筑波大学山岳科学センター・大学院自然保護寄附講座共催) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 林業の定義に関する歴史の変遷
3. 学会等名 林業経済学会2019年秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 森林が有する文化的な価値の歴史の変遷
3. 学会等名 林業経済学会2019年春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野悠一郎
2. 発表標題 新たな森林利用の潮流と文化的価値の創生 森林をめぐる価値研究序論
3. 学会等名 林業経済学会2019年春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥敬一
2. 発表標題 森林景観の保全における文化的景観概念の役割
3. 学会等名 林業経済学会2019年春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深町加津枝
2. 発表標題 全国アンケート調査をふまえた全国の林業遺産とこれからの課題
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 持続的な林業遺産の保全に向けた取り組み-屋久島を事例にして-
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野悠一郎
2. 発表標題 林業遺産をめぐる「価値」の分類と活用への反映
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八巻一成・武田泉・山田大隆
2. 発表標題 林業遺産に対する地域の眼差しの変化-北海道の事例-
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹本太郎
2. 発表標題 統治初期台湾における玉山の登頂と阿里山森林の発見
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥山洋一郎・赤池慎吾・柴崎茂光・八巻一成
2. 発表標題 森林鉄道遺構の保存と活用
3. 学会等名 第129回日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigemitsu SHIBASAKI
2. 発表標題 Are protected area systems creative destruction or destructive creation for local communities?
3. 学会等名 筑波大学大学院自然保護寄附講座国際シンポジウム「地域に根差した自然保護」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 屋久島の薪炭生産に関する映像研究
3. 学会等名 第128回日本森林学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深町加津枝・柴崎茂光・奥山洋一郎・八巻一成・奥敬一
2. 発表標題 全国の林業遺産の分布状況と今後の展望
3. 学会等名 第128回日本森林学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 屋久島における映像を用いた生業研究の可能性
3. 学会等名 林業経済学会2016年秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥山 洋一郎・枚田 邦宏・森本拓也
2. 発表標題 鹿児島大学演習林における林内集落の展開過程
3. 学会等名 林業経済学会2016年秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 八巻一成・武田泉・奥山洋一郎・柴崎茂光
2. 発表標題 北海道における林業遺産保存の現状と課題
3. 学会等名 林業経済学会2016年秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 映像記録にみる丹後半島山間部の暮らし-その継承と創造-
2. 発表標題 深町加津枝・奥敬一
3. 学会等名 林業経済学会2016年秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柴崎茂光
2. 発表標題 屋久島をめぐる林野開発と信仰
3. 学会等名 2016森林と市民を結ぶ全国の集いin東京（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 柴崎茂光（蛭原一平，齋藤暖生，生方史数編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 233-258 (306pp)
3. 書名 保護地域を活用した地域振興や山村文化保全の可能性（「森林と文化」-森と共に生きる民俗知のゆくえ-）	

1. 著者名 Shigemitsu SHIBASAKI (CHAKRABORTY, A., MOKUDAI, K., COOPER, M., WATANABE, M., and CHAKRABORTY, S (Eds.))	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 73-83 (183pp)
3. 書名 Yakushima Island: Landscape History, World Heritage Designation, and Conservation Status for Local Society(Natural Heritage of Japan -Geological, Geomorphological, and Ecological Aspects-)	

1. 著者名 Memories of Yakushima's Forests in the Hearts of the People (Ethnological Research Film)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 National Museum of Japanese History	5. 総ページ数 80分
3. 書名 Shigemitsu SHIBASAKI	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武田 泉 (TAKEDA Izumi) (00271726)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	深町 加津枝 (FUKAMACHI Katsue) (20353831)	京都大学・地球環境学堂・准教授 (14301)	
研究分担者	林 雅秀 (HAYASHI Masahide) (30353816)	山形大学・農学部・准教授 (11501)	
研究分担者	奥山 洋一郎 (OKUYAMA Yoichiro) (30468061)	鹿児島大学・農水産獣医学域農学系・助教 (17701)	
研究分担者	山田 康弘 (YAMADA Yasuhiro) (40264270)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥 敬一 (OKU Hirokazu) (60353629)	富山大学・芸術文化学部・准教授 (13201)	
研究分担者	八巻 一成 (YAMAKI Kazushige) (80353895)	国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員 等 (82105)	
研究分担者	上野 祥史 (UENO Yoshifumi) (90332121)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
連携研究者	竹本 太郎 (TAKEMOTO Taro) (10537434)	東京農工大学・農学研究科・講師 (12605)	
連携研究者	平野 悠一郎 (HIRANO Yuichiro) (00516338)	国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員 (82105)	